

講演会

信州しおじり
本の寺子屋

NAVIGATOR 長田 洋一

本の魅力

- 書評の功罪 -

新聞に掲載される、本の紹介や評価を書いた記事、「書評」。書評は、本の売り上げに大きな影響を与えるなど、読者や出版社に対して大きな力を持っています。

今回の本の寺子屋は、これまで多くの書評を担当された、元信濃毎日新聞社論説委員の三島利徳さんをお呼びして、書評のもつ力や魅力に迫ります。

日時: 2016年9月25日(日)
13:30~15:30(開場 13:00)

場所: 塩尻市市民交流センター
(えんぱーく)3階多目的ホール

定員: 60名(先着順) 入場無料

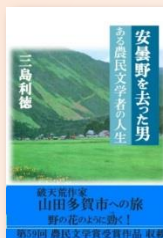
申込み開始日: 8月7日(日)

申込み方法:

お電話または図書館本館総合カウンターでお申し込みください。
塩尻市立図書館本館
電話:0263-53-3365(毎週水曜休館)



講師 三島 利徳
(元信濃毎日新聞社論説委員)



当日は三島さんの新著『安曇野を去った男 ある農民文学者の人生』の販売とサイン会があります。

講師からのメッセージ

新聞の書評の役割は、権威や上すべり人気に流されず小さき声(出版)でもきらりと光るものも選んで多くの読者に奨めることにあると思います。読書欄を担当し、一面のコラムも書いた体験を踏まえてお話しします。各新聞の読書欄も見比べてみます。

PROFILE

三島利徳(みしま としのり) 1947年下伊那郡豊丘村生まれ。村内小中学校、飯田高校を経て1970年静岡大学人文学部卒、同年信濃毎日新聞社入社。本社報道部、更埴支局、佐久支社、臼田支局勤務を経て1984年から文化部(デスク、部長)。文化部では書評などを担当し、2001年からは論説委員を務めて社説、斜面を執筆した。2012年退社。

現在、長野県カルチャーセンターの「文章を書く」講座講師(通信制あり)。清泉女学院短期大学および長野赤十字看護専門学校の非常勤講師。2016年4月、「破天荒作家 山田多賀市(やまだたかいち)と農民文学」で第59回農民文学賞(評論の部)を受賞。

※山田多賀市(1907~1990年) 安曇野市に生まれ山梨県で活躍した農民文学作家。作品に『耕土』『雑草』『農民』など。

主催 塩尻市・塩尻市教育委員会
企画 長田 洋一(編集者・元河出書房新社『文藝』編集長)
顧問 永井 伸和・山野 浩一・常世田 良
後援 塩尻書店組合・長野県出版協会・長野県図書館協会・信州大学・松本大学・朝日新聞松本支局・信濃毎日新聞社・市民タイムス・中日新聞社・長野日報社・毎日新聞松本支局・松本平タウン情報・読売新聞長野支局・エルシーブイ(株)・テレビ松本ケーブルビジョン・abn長野朝日放送・NBS長野放送・NHK長野放送局・SBC信越放送・TSBテレビ信州・日本ハイコム(株)